

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社 イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 (第一ユニット、第二ユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区西久保1-13-26		
自己評価作成日	平成24年10月4日	評価結果市町村受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2274202254-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光・風・緑をコンセプトに開設して7年目です。今年ほど長きにわたり重度な介護を強いられていた利用者様の看取りが、多かった年は、ありませんでした。しかし、介護職、看護職、医療職との連携により過剰な医療をしないその人らしい最期を迎えられたことは、介護の質の高さが大きいと確信しています。職員の出入りが激しい中で少しづつ残ってくれるベテランの介護職員達が、利用者様、ご家族との馴染みの関係ができ信頼関係が生まれてきています。利用者達は、今日も安心・安寧な介護を受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ドラックストアもあり賑わいも感じられる住宅地にひときわ目立つ瀟洒な白い建物として事業所があります。また、正面からは分かりにくいのですが、250坪もの敷地に平屋で2ユニットは圧巻です。駐車場にはトキワマンサク、玄関には日草がプランターで咲き乱れ、春になるとつつじも咲くとのことです。
 "平和"を象徴するかのような鳩とグリーンモチーフの看板やエプロンなど至るところにあり、統一感とともに清潔感の高さもあります。空間設計やサイン(表示)、調度品や小物などに細やかな配慮や工夫が感じられます。また、知的障害をもつ職員が週5勤務のほか常勤者は13名、常時6~8名の職員がいて、利用者の安寧に尽くしている様子が伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常々、地域との交流を大事にしていくという理念の下でグループホーム施設の地域との位置関係話を話しています。地域住民との交流(バザー開催)近隣者との交流(自治会活動)を行っています。	入口正面に理念を掲示し、意識づけに取り組んでいます。掲示の理念は写真とともに構成され、言葉にならない面も受けとめて欲しいとの工夫が視えます。理念への理解に凸凹はありますが、ベテラン職員のフォローを得て、全体での取り組みは安定しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	代表者が、地域住民として暮らしており自治会活動への参加、地域住民が持参された地域活動のポスターをホームの掲示板で広報活動に協力したり地域行事(節分等)に参加させていただき子ども達との交流を行っています。	法人代表者の生まれ育った地域であり、現在も地の神様の総代であるため、協力は得やすい状態にあります。玄関入口にも“西久保3区1部6班長、の札もかかっていました。地域の祭りでは立ち寄り場所になり、また消防団主宰のハロウィンなどにも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や地域住民、地域の民生員さん等との交流を通して情報交換、対応法についての話合いが、活発にされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では、報告や話合いがありますが、あまりご意見を伺うことはなく情報共有が多々見られます。	運営推進会議では、薬学講座や認知症サポーター養成講座などの企画も抱き合わせてあり、多様なメンバーを募る積極的な姿勢が視えます。近隣のクリーニング店主の参加も得られたこともありますが、残念ながらまだ参加者増につながってはいません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が、月1回来所していただき事業所の近況報告や取組状況についてお話しして理解をいただいております。	包括職員に運営推進会議に参加してもらったり、事業所も医療・福祉の連携会議に参加したりと、双方の協力関係がみられます。事業所側から市の介護相談員を要請し、月1回の来訪を得ていて、外部の人の定期訪問から事業所を振り返る機会ともなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動・行為に対して寄り添うケアにつとめ玄関は、施錠せず、車椅子での立ち上がりへの対応について拘束しないケアを行っています。	現状の細かな点について確実にヨシとできない思いが管理者にあり、ゼロ宣言はしていません。管理者自身が納得できるレベルに達するまで、今後も表明は控えたいとのことです。真面目で堅固な姿勢から、職員指導への取り組みも高いことが察せられ、丁寧な職員の言動も視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や着換え時に内出血、打撲痕等を発見したら報告を行い原因、対応法について話し合いが行われている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の利用者や成年後見被後見人の利用者は居ますが、各職員が、学ぶ機会はあまりなく今後は、知識を高めていく必要は、あります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へは、十分な説明を行い納得は、されている。又、年1回の家族会で改定については、説明を出席されたご家族には、行っている。利用者には、理解納得は、厳しい方の入所が殆どなので説明・理解・納得は、皆無に等しいです。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来所時に出迎え挨拶と共に日常のご様子をお伝えしながら意見、ご要望を聞くよう務めている。運営推進会議等において外部者に伝える機会を設けている。	家族には月1度お手紙とともに介護記録の複写も同封しています。また、必ず「何かご心配ごとがありましたら相談ください」とのメッセージを書き入れ、来訪を促しています。家族会を年1回開催し、面会の少ない家族にも家族同士顔を合わせる機会を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者への連絡ノートや申し送りの活用。月2回のミーティングなどで話す機会を持ち職場の意見や提案を検討し取り入れている。管理者とは、常に相談できる環境にある為可能なことなら直ぐに改善できる。	一人ひとりの利用者への職員発言は多くあり、プラン上かつケアサービス上の反映事例は数多あります。ただし、運営上の意見は多くないため、リーダーをつくらせていきたい思いが管理者にはあります。まずはジョブ評価表という自己評価を導入し始めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情を抱えながら働く職員に対しては、勤務時間、休日、勤務の変更、等は、配慮する努力はしている。勤務状況や行事等により運営に協力してくれている職員へは、給与等に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、本人の希望や技術面でのレベル等を考慮しての参加を出張として認めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者との交流は行われている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での生活なので少しでも早くになれるよう声掛けを心がけたり情報を職員たちに周知してもらい信頼関係を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が、気軽に利用者への要望や不安についての話ができるよう職員から家族に声を掛けるように勤め信頼関係を得ていくよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入浴する日時については、希望される日時で入浴されている人もいます。利用者の状況で必要性が生じた場合は入浴するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けを励行し一方的に介護しない。食事作り・洗濯たみ・生活全般について利用者の意欲、能力にあわせ職員とともにやるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との対話を常に大切にしていけるようその都度利用者を交えて家族、職員と話し合うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が、希望されることはなく、一方的に面会に来られます。奥様が、デイサービスに来られた際に必ず利用者の夫に面会が出来るようにしています。奥様は、1人暮らしで夫に会いにこれないので。利用者は、楽しみにしているようですが、いざ会うと会話は、成立しませんが	理美容や墓参は家族に付き添われ外出しています。地域のS型デイサービスを楽しみの場としている利用者もいます。運営推進会議に参加している民生委員がパッチワークを趣味とする利用者にボランティア訪問で指南くださるという例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思疎通のできる方、馴染みの関係ができていられる方が、交流しやすい場の提供に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の利用者のご家族は、時々たずねてきてくれるので1人暮らしになってしまったので必要に応じて相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けを拒否したり介助を拒否する利用者に対して本人の世界を優先し遠目で見守るようにしている。	意欲が衰えた利用者に居室でのプランターへの水やりをアプローチした職員、利用者のリズムに合わせて同調する職員、本意を確認しつつやりとりを進める職員と、受容と尊重のケアサービスに取り組んでいることをいたる処で視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、暮らし方を利用者、家族からできるだけ聞き取るようにしている。日々の利用者とのかかわりから知れたことも把握・介護に受け入れていくようにするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、1日自分のペースで過ごされている集団で強制されてやることはない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見・医療との連携・地域社会資源の活用を踏まえ介護サービス計画書作成を行っている。月2回開催しているケアカンファレンスでは、モニタリング、情報交換、意見を出し合い集約したものが介護サービス計画書に反映されている。	すべての職員がすべての利用者のことを知ってもらいたいとの管理者の考えから、カンファレンスは職員全員で話し合っています。家族の要望と利用者の想いとかみあわないことも少なく、家族に理解を求めることもありますが、話し合いを繰り返すことで合意できるよう努めています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても解りやすく記録するよう努め職員間で情報共有している。状況等の変化は、適宜ケアカンファレンスに議題として話し合い支援内容の見直し変更を、行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の体調に合わせて食事の形態、排泄等のトイレ誘導・パッドの充て方を検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	魚屋、米屋、肉屋が毎日のように来所してくれたりホームの前には、スーパーや薬屋が開業しており近隣に外科病院、歯科医院、洋服屋もあり衣食住に困らない環境のところにある。職員とスーパーに買いものに行ったり病院受診する利用者も居ます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の方が、24時間緊急医療体制がとれるようにしてあるが、ご家族で定期的に総合病院受診を希望されているかともいましてご家族に受診していただいている。又、異変があればご家族に連絡して受診を進めている。	月2回往診くださる事業所の協力医にすべての利用者を変更しています。協力医は往診日でない場合でも、すみやかに対応してくれていて、利用者・家族の安心に繋がっています。専門医に関しては家族に付き添いをお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が、看護師であることもあり異常が、あれすぐに報告できる距離にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年、肺がんと診断されホームに戻るまで家族、病院のワーカー、主治医との連携をとりながら余命3ヶ月の宣告をうけホームに戻ってきた利用者に対し今後の病院での治療が予測される為現在もワーカーと連絡を取り合い外来受診等をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最初から希望があれば、終の棲家であるグループホームで最期を迎えている。看護師、介護職、医療が連携協力しながら重度化の対応をしている。できる部分については、充分な説明は行っている。	状態変化が激しく職員も対応に苦慮するなか、医療現場で迎える最期では忍びないとの管理者の想い、また家族同士の意見の不具合等々、それぞれの想いや意見が交錯する看取りを本年は4例取り組み、事業所の学びも深くなっています。	あらかじめ枠組みをつくるのが難しい、また本意でないとのことでしたら、一つひとつの事例の記録を詳細に取り、事例マニュアルができていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師から状態が急変時に最初に何をすべきかは日頃より話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回 救助活動や避難訓練等を行っている。緊急通報装置、スプリンクラーの対応、火の元の点検、防災倉庫、持ち出し品等の確認を行っている。災害時の対策については、地域運営推進会議や家族会で話題としている。	時間計測も含め、具体的な防災訓練に取り組んでいます。非常持ち出しには「備蓄庫の一覧表」「緊急連絡網」「投薬一覧」などの重要書類を備えています。また、本年は発電機も購入し、備蓄は3日分程度確保しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格に沿った声掛け、対応に務めている。	新しく入所した利用者のトイレにおける自立度を維持するために“蛍光テープ”や“センサーランプ”を取り付けた例もあります。「常に口頭で伝えていきます」との管理者の言葉通り、職員は敬意をもった対応ができていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助時に利用者への声掛け、意思を聞くようにしている。自分から要求できない・自発会話のない利用者には、表情を読み取るように務めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿うように散歩・買い物に出かけるようにしています。入浴も拒否があるときは強制せず人を替えたり時間をおいて誘うようにしている。どうしても拒否がひどい場合は、日を改めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々のスタイルは、利用者の好みを取り入れコーディネートします。ヘアスタイルや髭剃りは、介助が必要な方は、お手伝いさせていただいています。身に着けているものに対し「素敵ですよ。似合いますよ」の声かけにより意欲的におしゃれを楽しむようにしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは手伝いができる人に手伝っていただいている。メニューは、好みのものを取り入れたりと曜日が分るように人気メニューを曜日指定で出している。	ラジオの音声のみの穏やかな雰囲気が流れるなか、職員も間に入り、手づくりの食事をそれぞれのリズムで食っています。優しい声掛けで食事介助する職員や、職員に「もう少し水が欲しい」と甘える利用者も視認し、日頃の心地よい関係が覗えます。	栄養バランスに優れたメニューですが、例えばランチョンマットの導入など見た目の彩についても今後の検討材料とされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みみ能力、嚥む力等を考慮し刻み、トロミ、ブレンダーにしている。体格、食欲、食事の食べっぷり、運動量も考慮し食事量を決めている。熱が出やすい、自分から水分を摂れない利用者は、水分量測定をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアについては、個々の口の中の状況によりハブラシを選んだりできない部分についての援助、声掛けを行っている。全介助を要する人は、歯間ブラシ、ハミグッドで口腔ケア、うがいができない人は、ハミガキティッシュでケア対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、基本的にトイレでの排泄を心がけている。尿意を訴えても行くまでに漏れてしまい汚染しないよう尿量にあわせてパッドの種類を各自検討している。夜間は、尿意のない利用者は、尿量に合わせたオムツ対応でトイレの誘導は、あえてしていない。	排泄チェック表を記入していますが、利用者の言動から読み取り、動くようにしています。また、状況が人それぞれなため、画一的な方法はとっていません。「馴染みのものを」とのことから男性専用の小便器もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂っていただいたり散歩や適度な運動を励行してもらっている。歩行できない人は、お粥等で水分を多めに摂っていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時を希望される利用者は、希望に沿う対応をしている。	ごく普通のある家庭にある浴槽です。入口の幅がやや狭いため、車いすではなくシャワーチェアで移動してもらう利用者もいます。身体の大きさやADLの状態によっては二人体制ですが、大半はマンツーマン対応です。入浴剤や職員との会話などの楽しみもあります。今後、脱衣所にラジオを置く予定もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活状況、心身の状況にあわせて休息をとっていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のチャートブックに内服の効能が入っており職員が周知できるようになっている。大事な内服に関しては、看護師から説明をもらっている。拒薬がある人は、人や時間をおいてトライしている。錠剤が、飲み込みにくい利用者の内服は、内服直前に潰して蜂蜜やゼリー等に混ぜて飲んでいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとが作れるような利用者の支援として地域のボランティアの方にパッチワークを教えていただいております。作り方を聞く時は、職員が同席するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望される利用者は、少なく天候により散歩に出かけたり玄関のプランターを楽しんでいます。月2回、3名の方が地域のS型デイサービスに出かけています。年2回 家族に声を掛けて遠足に殆どの利用者が出かけます。外食は、地域のお店を使い出かけていきます。	ADL低下などで散歩が難しい利用者は、日当りのよい駐車場で職員とともに外気浴を楽しんでいます。また、月2回程度外食に出掛けていて、地域の店を利用するよう努めています。遠足程度の遠出企画もあり、前は蓮花寺公園、次回は富士川楽座に出掛けることになっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができるのは、入居者1人だけです。その利用者も日常生活自立支援制度の利用者で支援を受けながら日用品等を購入しています。お金は持っていませんが、行事等で購入したいものがあるときは、自分からお金を出して買うよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら手紙や電話のやり取りをする利用者はいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭は、落葉樹を植えることで季節感を出している。吐き出しの窓なので外の天気が見られるようになっている。フローナーには、寒暖計がおかれている。賭け時計の近くには、カレンダーが設置され日時を気にかけるような会話が聴かれることもある。	枠組み軸工法で気密性と耐震性に優れ、また天井にも窓があり、採光が豊富にはいってきます。壁はチップ材で環境ならびに健康に配慮され、側面(間接)照明が温かみを醸成しています。また、リネン庫以外は床暖房になっています。中庭のヤマボウシは葉の色を替え、季節を教えてください。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローナーにテーブル席が、2つ、応接用ソファが、1セット 窓際に3人がけのソファがおかれ気の合う者通しが談笑されたり1人で静かに過ごされるていることもありゆったりした空間づくりに務めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるタンス、ソファ、鏡台などを居室に配置し好きな写真を飾り居心地の良い空間を過ごしていただいている。	居室前には一般家庭さながらの表札があり、また暖簾も色合いが異なっていて、それぞれの「家」との印象があります。嫁入り道具とおぼしき鏡台など馴染みの調度品を持ち込み、またベッドではなくマットレスと布団の利用者もいて、好みの部屋をつくっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも洗面所が使える。トイレは、場所の間違いが無きよう大きな字で表示されている。トイレは、両肘・壁に手摺が取り付けられている。車椅子での便座への移乗、便座からの立ち上がりを容易にしている。		